NANOTECH

NANOTECH

NANO TECHNOLOGY　RADICAL CONTROL　RHEOLOGY CONTROL

SERIES

塗装仕様書

ナノウォール20
ナノウォール15
ナノウォール10

ナノルーフ20
ナノルーフ15
ナノルーフ10

ナノルーフ20遮熱＋
ナノルーフ15遮熱＋

水谷ペイント株式会社　水谷ペイント株式会社ホームページ　www.polyma.co.jp

本　社　TEL:(06)6391-3151　FAX:(06)6393-1101　住所:大阪市淀川区西三国4丁目3番90号
札　幌　TEL:(011)824-5711　FAX:(011)824-6464
仙　台　TEL:(022)782-6770　FAX:(022)232-6871
北関東　TEL:(048)563-0355　FAX:(048)563-5124
東　京　TEL:(03)3865-8177　FAX:(03)3865-8760
中　部　TEL:(0568)85-3551　FAX:(0568)85-3556
大　阪　TEL:(06)6391-3401　FAX:(06)6391-3456
広　島　TEL:(082)284-6556　FAX:(082)283-0017
福　岡　TEL:(092)611-5731　FAX:(092)621-2301

LINE公式
アカウント開設！
ID：@521kgmun

水谷HPは
こちら↓

ISO 9001
ISO 14001
JQA-2631（本社工場）
JQA-E-M3548（本社工場）

おかげさまで
100th
Since 1922

カタログ掲載の内容は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

OND23090339

耐久性で選ぶナノテクシリーズ

屋根と外壁では、屋根面の方が日差しや降雨など厳しい環境にさらされるため塗膜の劣化速度が異なります。
ナノテクシリーズは屋根の耐久性を上げて外壁との劣化速度を合わせているので、次回の塗り替えも同時期に検討することが可能です。

耐久年数

	外装用塗料	屋根用塗料	屋根用遮熱塗料
最高級 20年相当	ナノウォール 20	ナノルーフ 20	ナノルーフ 20遮熱＋
高級 15年相当	ナノウォール 15	ナノルーフ 15	ナノルーフ 15遮熱＋
標準 10年相当	ナノウォール 10	ナノルーフ 10	

※塗膜の耐久年数は保証期間ではありません。塗装部位や建物の状態、気候条件によって大きく変わってくるため、あらかじめご了承ください。耐久年数までに次の塗り替えの検討を推奨いたします。
※ナノルーフ遮熱+は、特殊顔料を用いているため同グレードのナノルーフと比較すると耐久性が若干劣ります。

■ナノテクシリーズ製品一覧

製品名	外装用塗料			屋根用塗料				
	ナノウォール 20	ナノウォール 15	ナノウォール 10	ナノルーフ 20	ナノルーフ 15	ナノルーフ 10	ナノルーフ 20遮熱+	ナノルーフ 15遮熱+
分類	水系1液型 無機系フッ素 樹脂塗料	水系1液型 ハイグレード ナノシリコン 樹脂塗料	水系1液型 ナノシリコン 樹脂塗料	水系1液型 無機系フッ素 樹脂塗料	水系1液型 ハイグレード ナノシリコン 樹脂塗料	水系1液型 ナノシリコン 樹脂塗料	水系1液型 無機系フッ素 樹脂遮熱塗料	水系1液型 ハイグレード ナノシリコン 樹脂遮熱塗料
荷姿	15kg	15kg	15kg	12kg、4kg (中塗りは15kg)	15kg	15kg	12kg、4kg	15kg
希釈	希釈水	希釈水	希釈水	希釈水	希釈水	希釈水	希釈水	希釈水
標準色	艶有り 30色 3分艶有り 30色	艶有り 30色 3分艶有り 30色	艶有り 30色 3分艶有り 30色	艶有り 21色 (銀黒色1色含) 艶消し 20色	艶有り 21色 (銀黒色1色含) 艶消し 20色	艶有り 21色 (銀黒色1色含) 艶消し 20色	艶有り 12色 艶消し 12色	艶有り 12色 艶消し 12色
調色対応 ※1	対応可	対応可	対応可	対応可	対応可	対応可	—	—
艶 ※2	艶有り 3分艶有り	艶有り 3分艶有り	艶有り 3分艶有り	艶有り 艶消し	艶有り 艶消し	艶有り 艶消し	艶有り 艶消し	艶有り 艶消し
鏡面光沢度：60度 ※3	75以上 (15以下)	75以上 (15以下)	75以上 (15以下)	70以上 (15以下)	70以上 (15以下)	70以上 (15以下)	70以上 (15以下)	70以上 (15以下)

※1：調色の範囲については製品ごとに異なりますので別途ご確認ください。
※2：艶調整はできません。艶は製品（樹脂）の種類ごとに若干異なります。あらかじめご了承ください。
※3：（　）内は3分艶有り色もしくは艶消し色の場合

■塗装工程

※記載の工程は一例です。詳細は別ページの『塗装仕様書』をご覧ください。
※寒冷地の場合は別途ご相談ください。

外壁

下地	下塗り	上塗り
●コンクリート・モルタル素地	水系Wシーラー リフレッシュサフェーサーエポ リフレッシュフィラー	ナノウォール 各種 (2回塗り)
●複層仕上塗材・薄付け仕上塗材	水系Wシーラー リフレッシュサフェーサーエポ リフレッシュフィラー	
●窯業系サイディングボード	水系Wシーラー リフレッシュサフェーサーエポ 高密着シーラー（弱溶剤系）	
●金属系サイディングボード	水系ハイエポン 高密着シーラー（弱溶剤系）	

屋根

1.ナノルーフシリーズ

下地	下塗り	中塗り	上塗り
●住宅屋根用化粧スレート ●プレスセメントがわら ●波形スレート	水系パワーシーラーⅡ	ナノルーフ 20 中塗り (1回塗り)	ナノルーフ 20 (1回塗り)
●ノンアスベスト波形スレート	エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）		
●乾式洋瓦	スラリー強化プライマーⅡ		
●アスファルトシングル	水系アスファルトシングル用下塗り		ナノルーフ 10・15 (2回塗り)
●金属系屋根材	水系ハイエポン		

2.ナノルーフ遮熱+シリーズ

下地	下塗り	中塗り	上塗り
●住宅屋根用化粧スレート ●プレスセメントがわら ●波形スレート	快適サーモ水系シーラー白		ナノルーフ 遮熱+ 各種 (2回塗り)
●アスファルトシングル	アスファルトシングル用下塗り サーモクリーム		
●乾式洋瓦	スラリー強化プライマーⅡ	快適サーモW 中塗りクリーム	
●ノンアスベスト波形スレート	エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）		
●金属系屋根材	水系ハイエポン		

超耐久性

ナノウォール20

NANO WALL

1.新規塗装・改修塗装（コンクリート・モルタル素地）

●テクスチャーをつける場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	モルタル、PC、RC等の下地に付着しているレイタンス、土砂、ホコリ、油脂類は除去し、水分率5%以下(デジタル水分計)、pH10以下に管理する。欠け、不陸部分は樹脂モルタルであらかじめ補修する。									
下塗り	水系Wシーラー 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	0.1～0.2	1	75～150	－	－	2h以上	－
下地調整材	リフレッシュフィラー 16kg	1～3% (希釈水)	マスチックローラー	0.8～1.5	1	11～20	－	－	16h以上	－
上塗り	ナノウォール20 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※エフロレッセンスの発生が懸念される場合は、下塗りに「2液マイルドウォールシーラー」を塗装してください。

●テクスチャーをつけない場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	モルタル、PC、RC等の下地に付着しているレイタンス、土砂、ホコリ、油脂類は除去し、水分率5%以下(デジタル水分計)、pH10以下に管理する。欠け、不陸部分は樹脂モルタルであらかじめ補修する。									
下塗り	水系Wシーラー 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	0.1～0.2	1	75～150	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノウォール20 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※エフロレッセンスの発生が懸念される場合は、下塗りに「2液マイルドウォールシーラー」または「リフレッシュサフェーサーエポ」を塗装してください。
※上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

2.改修塗装（複層仕上塗材、薄付け仕上塗材）

●テクスチャーをつける場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュフィラー 16kg	1～3% (希釈水)	マスチックローラー	0.8～1.5	1	11～20	－	－	16h以上	－
上塗り	ナノウォール20 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※旧塗膜の劣化が著しい場合は、下塗りに「水系Wシーラー」をご使用ください。

●テクスチャーをつけない場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュサフェーサーエポ 16kg	3～5% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.2～0.5	1	32～80	－	－	3h以上	－
		4～6% (希釈水)	エアレス	0.3～0.5		32～53	－			
上塗り	ナノウォール20 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※旧塗膜の劣化が軽度な場合は、「リフレッシュサフェーサーエポ」のかわりに「水系Wシーラー」も使用可能です。ただし、リシンには「リフレッシュサフェーサーエポ」を推奨します。
※上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

3.改修塗装（窯業系サイディングボード）※テクスチャーは変えられません。

●旧塗膜の劣化が著しい場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュサフェーサーエポ 16kg	3～5% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.2～0.5	1	32～80	－	－	3h以上	－
		4～6% (希釈水)	エアレス	0.3～0.5		32～53	－			
上塗り	ナノウォール20 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※光触媒・無機・フッ素系のものがコーティングされた基材や経年劣化していない基材には付着しない場合がありますので、付着性を確認の上、施工してください。
※旧塗膜の劣化が軽度な場合は、「リフレッシュサフェーサーエポ」のかわりに「水系Wシーラー」も使用可能です。
※「水系Wシーラー」を使用する場合で、上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

4.改修塗装（金属系サイディングボード）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエポン 主剤 9kg 硬化剤 6kg	5～7% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.16～0.18	1	83～94	4h以内	－	16h以上 7日以内	－
上塗り	ナノウォール20 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※光触媒・無機・フッ素系のものがコーティングされた基材や経年劣化していない基材には付着しない場合がありますので、付着性を確認の上、施工してください。
※別途「エポックマイルド＃2000N」も使用可能です。
※上塗りの色によっては3回塗装が必要な場合があります。
※水系ハイエポンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。
※水系ハイエポンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエポン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

5.その他の下塗り材

●エフロレッセンスの発生が懸念される場合（２液マイルドウォールシーラーは弱溶剤系塗料です。）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
下塗り	2液マイルドウォールシーラー 主剤 10kg 硬化剤 1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	0.1～0.15	1	73～110	10h以内	－	5h以上 7日以内	－

※シーラーの吸い込みが激しい場合は、再度全面にシーラーを塗装してください。

●難付着性サイディングボードの場合（高密着シーラーは弱溶剤系塗料です。）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
下塗り	高密着シーラー 主剤 10kg 硬化剤 1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	0.1～0.15	1	73～110	10h以内	-	5h以上 7日以内	－

※光触媒サイディングの場合、上塗り塗料は必ず規定量を塗付していただき、塗りむらや透けないようにお願いいたします。

注 意 事 項

【仕様全般】
1. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度(80%以上)・低気温(5℃以下)の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。
2. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
3. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
4. 塗装面のゴミやホコリ等は取り除いてください。
5. 水洗後、1日以上の乾燥を行ってください。
6. 塗料は内容物が均一になるように撹拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
7. 塗装間隔時間は標準であり、立地条件や気象条件により異なります。
8. 斜壁やパラペットの天端に塗装を行なった塗膜は壁面と比較して耐久性に差が生じることがあります。
9. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色差異がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
10. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
11. エアレス塗装の場合、塗料の飛散による汚染の可能性がありますので、必ず養生してください。
12. ガラス・アルミサッシ等に付着した場合は、すぐにウエスに水をしみ込ませてふき取ってください。乾いた時は、ラッカーシンナーでふき取ってください。
13. 爆裂したような著しく劣化したサイディング材へ塗装すると意匠性が劣るため、塗装は避けてください。
14. 目地部が深い場合は、目地ハケなどで塗装してください。
15. 目地部に塗料がたまった場合や、タレが発生した場合はむら切りしてください。
16. 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
17. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット・同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
18. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
19. 濃色目になると、ローラー塗装時に塗り継ぎ箇所で艶むらを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
20. 塗装乾燥過程で降雨にあった場合、雨水の集中する部位に於いて、汚れが付着することがあります。適切な養生を行うなどして直接雨が当たらないような処置をお願いします。
21. 上塗材は所定の乾燥時間(最終養生時間)を厳守してください。施工後、塗膜が乾燥するまでの時間内に降雨などにより、塗膜表面が長時間、水分がかかった状態になりますと、所定の低汚染機能が発揮されない場合があります。
低汚染機能は乾燥後の塗膜で発揮されるため、乾燥過程で降雨などが予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に雨が当たらないよう所定の乾燥時間を厳守してください。
22. 低温、高温時は乾燥が遅くなることがありますので、塗装後1～2日は、粉じんなどの汚染物質の付着にご注意ください。
23. 防カビ・防藻性については、下地の条件・塗装の条件・塗装前処理の程度により、カビや藻が発生する可能性があります。
24. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
25. 塗膜の膨れ、剥離、白化の発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
26. 酸洗いを行う場合は、水をかけた後に行い、その後の水洗は念入りにしてください。
27. 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、剥離、白化、しみの発生、艶引けなどにつながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。
28. 上塗りにイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など、彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、隠ぺい性の良い共色であらかじめ塗装を行ってください。
29. 著しく結露を生じるような場所では、しみが発生することがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装を行う場合は、強制換気の上、溶剤系塗料での塗装を推奨いたします。
30. 結露等によりしみが発生した場合は、乾燥後に水拭きなどで除去してください。
31. パテを使用する際は外部用パテをご使用ください。
32. 旧塗膜が弾性素材の場合は施工を避けてください。
33. スキンの場合は当社営業担当までご相談ください。
34. 旧塗膜が単層弾性で爪で押して弾性が残っている場合は塗装を避けてください。
35. 躯体のクラック等によりエフロレッセンスが発生する可能性のある場合は、下塗りにリフレッシュサフェーサーエポまたは2液マイルドウォールシーラーを塗装してください。
36. 斜壁には屋根用塗料を塗装してください。
37. 水系塗料に使用するハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
38. 排水溝には捨てないでください。
39. 施工部位により、低汚染性が充分に発揮されないケースがあります。特に、傾斜壁の下端部、笠木などの水切りのない部位、窓廻りで水切りが不充分な場合、汚れが溜まりやすい目地の下部、雨がかからない部位などは、注意が必要です。
40. 濃色や原色に近い色は、塗膜に触ると色落ちや白い擦過痕が残る場合があります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
41. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質(VOC等)に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
42. 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
43. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

【塗料に関する注意】
1. 出荷後出来るだけ早い時期にご使用ください。
2. 使用前には充分撹拌してください。
3. 小分けする場合は、充分撹拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いの原因となります。
4. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
5. 水系塗料の保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
6. 材料の保管・取り扱いは消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。

高耐久性

ナノウォール15

NANO WALL

1.新規塗装・改修塗装（コンクリート・モルタル素地）

●テクスチャーをつける場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	モルタル、PC、RC等の下地に付着しているレイタンス、土砂、ホコリ、油脂類は除去し、水分率5%以下(デジタル水分計)、pH10以下に管理する。欠け、不陸部分は樹脂モルタルであらかじめ補修する。									
下塗り	水系Wシーラー 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	0.1～0.2	1	75～150	－	－	2h以上	－
下地調整材	リフレッシュフィラー 16kg	1～3% (希釈水)	マスチックローラー	0.8～1.5	1	11～20	－	－	16h以上	－
上塗り	ナノウォール15 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※エフロレッセンスの発生が懸念される場合は、下塗りに「2液マイルドウォールシーラー」を塗装してください。

●テクスチャーをつけない場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	モルタル、PC、RC等の下地に付着しているレイタンス、土砂、ホコリ、油脂類は除去し、水分率5%以下(デジタル水分計)、pH10以下に管理する。欠け、不陸部分は樹脂モルタルであらかじめ補修する。									
下塗り	水系Wシーラー 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	0.1～0.2	1	75～150	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノウォール15 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※エフロレッセンスの発生が懸念される場合は、下塗りに「2液マイルドウォールシーラー」または「リフレッシュサフェーサーエポ」を塗装してください。
※上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

2.改修塗装（複層仕上塗材、薄付け仕上塗材）

●テクスチャーをつける場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュフィラー 16kg	1～3% (希釈水)	マスチックローラー	0.8～1.5	1	11～20	－	－	16h以上	－
上塗り	ナノウォール15 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※旧塗膜の劣化が著しい場合は、下塗りに「水系Wシーラー」をご使用ください。

●テクスチャーをつけない場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュサフェーサーエポ 16kg	3～5% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.2～0.5	1	32～80	－	－	3h以上	－
		4～6% (希釈水)	エアレス	0.3～0.5		32～53	－			
上塗り	ナノウォール15 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※旧塗膜の劣化が軽度な場合は、「リフレッシュサフェーサーエポ」のかわりに「水系Wシーラー」も使用可能です。ただし、リシンには「リフレッシュサフェーサーエポ」を推奨します。
※上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

3.改修塗装（窯業系サイディングボード）※テクスチャーは変えられません。

●旧塗膜の劣化が著しい場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュサフェーサーエポ 16kg	3～5% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.2～0.5	1	32～80	－	－	3h以上	－
		4～6% (希釈水)	エアレス	0.3～0.5		32～53	－			
上塗り	ナノウォール15 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※光触媒・無機・フッ素系のものがコーティングされた基材や経年劣化していない基材には付着しない場合がありますので、付着性を確認の上、施工してください。
※旧塗膜の劣化が軽度な場合は、「リフレッシュサフェーサーエポ」のかわりに「水系Wシーラー」も使用可能です。
※「水系Wシーラー」を使用する場合で、上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

4.改修塗装（金属系サイディングボード）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエポン 主剤 9kg 硬化剤 6kg	5～7% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.16～0.18	1	83～94	4h以内	－	16h以上 7日以内	－
上塗り	ナノウォール15 15kg	3～10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※光触媒・無機・フッ素系のものがコーティングされた基材や経年劣化していない基材には付着しない場合がありますので、付着性を確認の上、施工してください。
※別途「エポックマイルド＃2000N」も使用可能です。
※上塗りの色によっては3回塗装が必要な場合があります。
※水系ハイエポンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。
※水系ハイエポンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエポン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

5.その他の下塗り材

●エフロレッセンスの発生が懸念される場合（２液マイルドウォールシーラーは弱溶剤系塗料です。）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
下塗り	2液マイルドウォールシーラー 主剤 10kg 硬化剤 1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	0.1～0.15	1	73～110	10h以内	－	5h以上 7日以内	－

※シーラーの吸い込みが激しい場合は、再度全面にシーラーを塗装してください。

●難付着性サイディングボードの場合（高密着シーラーは弱溶剤系塗料です。）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
下塗り	高密着シーラー 主剤 10kg 硬化剤 1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	0.1～0.15	1	73～110	10h以内	-	5h以上 7日以内	－

※光触媒サイディングの場合、上塗り塗料は必ず規定量を塗付していただき、塗りむらや透けないようにお願いいたします。

注 意 事 項

【仕様全般】
1. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度(80%以上)・低気温(5℃以下)の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。
2. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
3. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
4. 塗装面のゴミやホコリ等は取り除いてください。
5. 水洗後、1日以上の乾燥を行ってください。
6. 塗料は内容物が均一になるように撹拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
7. 塗装間隔時間は標準であり、立地条件や気象条件により異なります。
8. 斜壁やパラペットの天端に塗装を行なった塗膜は壁面と比較して耐久性に差が生じることがあります。
9. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色差異がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
10. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
11. エアレス塗装の場合、塗料の飛散による汚染の可能性がありますので、必ず養生してください。
12. ガラス・アルミサッシ等に付着した場合は、すぐにウエスに水をしみ込ませてふき取ってください。乾いた時は、ラッカーシンナーでふき取ってください。
13. 爆裂したような著しく劣化したサイディング材へ塗装すると意匠性が劣るため、塗装は避けてください。
14. 目地部が深い場合は、目地ハケなどで塗装してください。
15. 目地部に塗料がたまった場合や、タレが発生した場合はむらら切りしてください。
16. 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
17. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット・同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
18. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
19. 濃色目になると、ローラー塗装時に塗り継ぎ箇所で艶むらを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
20. 塗装乾燥過程で降雨にあった場合、雨水の集中する部位に於いて、汚れが付着することがあります。適切な養生を行うなどして直接雨が当たらないような処置をお願いします。
21. 上塗材は所定の乾燥時間(最終養生時間)を厳守してください。施工後、塗膜が乾燥するまでの時間内に降雨などにより、塗膜表面が長時間、水分がかかった状態になりますと、所定の低汚染機能が発揮されない場合があります。
低汚染機能は乾燥後の塗膜で発揮されるため、乾燥過程で降雨などが予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に雨が当たらないよう所定の乾燥時間を厳守してください。
22. 低温、高温時は乾燥が遅くなることがありますので、塗装後1～2日は、粉じんなどの汚染物質の付着にご注意ください。
23. 防カビ・防藻性については、下地の条件・塗装の条件・塗装前処理の程度により、カビや藻が発生する可能性があります。
24. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください、やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
25. 塗膜の膨れ、剥離、白化の発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
26. 酸洗いを行う場合は、水をかけた後に行い、その後の水洗は念入りにしてください。
27. 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、剥離、白化、しみの発生、艶引けなどにつながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。
28. 上塗りにイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など、彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、隠ぺい性の良い共色であらかじめ塗装を行ってください。
29. 著しく結露を生じるような場所では、しみが発生することがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装を行う場合は、強制換気の上、溶剤系塗料での塗装を推奨いたします。
30. 結露等によりしみが発生した場合は、乾燥後に水拭きなどで除去してください。
31. パテを使用する際は外部用パテをご使用ください。
32. 旧塗膜が弾性素材の場合は施工を避けてください。
33. スキンの場合は当社営業担当までご相談ください。
34. 旧塗膜が単層弾性で爪で押して弾性が残っている場合は塗装を避けてください。
35. 躯体のクラック等によりエフロレッセンスが発生する可能性のある場合は、下塗りにリフレッシュサフェーサーエポまたは2液マイルドウォールシーラーを塗装してください。
36. 斜壁には屋根用塗料を塗装してください。
37. 水系塗料に使用するハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
38. 排水溝には捨てないでください。
39. 施工部位により、低汚染性が充分に発揮されないケースがあります。特に、傾斜壁の下端部、笠木などの水切りのない部位、窓廻りで水切りが不充分な場合、汚れが溜まりやすい目地の下部、雨がかからない部位などは、注意が必要です。
40. 濃色や原色に近い色は、塗膜に触ると色落ちや白い擦過痕が残る場合があります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
41. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質(VOC等)に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
42. 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
43. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

【塗料に関する注意】
1. 出荷後出来るだけ早い時期にご使用ください。
2. 使用前には充分撹拌してください。
3. 小分けする場合は、充分撹拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いの原因となります。
4. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
5. 水系塗料の保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
6. 材料の保管・取り扱いは消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。

1.新規塗装・改修塗装（コンクリート・モルタル素地）

●テクスチャーをつける場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	モルタル、PC、RC等の下地に付着しているレイタンス、土砂、ホコリ、油脂類は除去し、水分率5%以下(デジタル水分計)、pH10以下に管理する。欠け、不陸部分は樹脂モルタルであらかじめ補修する。									
下塗り	水系Wシーラー 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	0.1～0.2	1	75～150	－	－	2h以上	－
下地調整材	リフレッシュフィラー 16kg	1～3% (希釈水)	マスチックローラー	0.8～1.5	1	11～20	－	－	16h以上	－
上塗り	ナノウォール10 15kg	2～8% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※エフロレッセンスの発生が懸念される場合は、下塗りに「2液マイルドウォールシーラー」を塗装してください。

●テクスチャーをつけない場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	モルタル、PC、RC等の下地に付着しているレイタンス、土砂、ホコリ、油脂類は除去し、水分率5%以下(デジタル水分計)、pH10以下に管理する。欠け、不陸部分は樹脂モルタルであらかじめ補修する。									
下塗り	水系Wシーラー 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	0.1～0.2	1	75～150	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノウォール10 15kg	2～8% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※エフロレッセンスの発生が懸念される場合は、下塗りに「2液マイルドウォールシーラー」または「リフレッシュサフェーサーエポ」を塗装してください。
※上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

2.改修塗装（複層仕上塗材、薄付け仕上塗材）

●テクスチャーをつける場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュフィラー 16kg	1～3% (希釈水)	マスチックローラー	0.8～1.5	1	11～20	－	－	16h以上	－
上塗り	ナノウォール10 15kg	2～8% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※旧塗膜の劣化が著しい場合は、下塗りに「水系Wシーラー」をご使用ください。

●テクスチャーをつけない場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュサフェーサーエポ 16kg	3～5% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.2～0.5	1	32～80	－	－	3h以上	－
		4～6% (希釈水)	エアレス	0.3～0.5		32～53	－			
上塗り	ナノウォール10 15kg	2～8% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※旧塗膜の劣化が軽度な場合は、「リフレッシュサフェーサーエポ」のかわりに「水系Wシーラー」も使用可能です。ただし、リシンには「リフレッシュサフェーサーエポ」を推奨します。
※上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

3.改修塗装（窯業系サイディングボード）※テクスチャーは変えられません。

●旧塗膜の劣化が著しい場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュサフェーサーエポ 16kg	3～5% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.2～0.5	1	32～80	－	－	3h以上	－
		4～6% (希釈水)	エアレス	0.3～0.5		32～53	－			
上塗り	ナノウォール10 15kg	2～8% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※光触媒・無機・フッ素系のものがコーティングされた基材や経年劣化していない基材には付着しない場合がありますので、付着性を確認の上、施工してください。
※旧塗膜の劣化が軽度な場合は、「リフレッシュサフェーサーエポ」のかわりに「水系Wシーラー」も使用可能です。
※「水系Wシーラー」を使用する場合で、上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

4.改修塗装（金属系サイディングボード）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエポン 主剤 9kg 硬化剤 6kg	5～7% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.16～0.18	1	83～94	4h以内	－	16h以上 7日以内	－
上塗り	ナノウォール10 15kg	2～8% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12～0.16	2	47～62	－	2h以上	－	24h以上

※光触媒・無機・フッ素系のものがコーティングされた基材や経年劣化していない基材には付着しない場合がありますので、付着性を確認の上、施工してください。
※別途「エポックマイルド＃2000N」も使用可能です。
※上塗りの色によっては3回塗装が必要な場合があります。
※水系ハイエポンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。
※水系ハイエポンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエポン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

5.その他の下塗り材

●エフロレッセンスの発生が懸念される場合（２液マイルドウォールシーラーは弱溶剤系塗料です。）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
下塗り	2液マイルドウォールシーラー 主剤 10kg 硬化剤 1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	0.1～0.15	1	73～110	10h以内	－	5h以上 7日以内	－

※シーラーの吸い込みが激しい場合は、再度全面にシーラーを塗装してください。

●難付着性サイディングボードの場合（高密着シーラーは弱溶剤系塗料です。）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃) 工程内	工程間	最終養生
下塗り	高密着シーラー 主剤 10kg 硬化剤 1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	0.1～0.15	1	73～110	10h以内	-	5h以上 7日以内	－

※光触媒サイディングの場合、上塗り塗料は必ず規定量を塗付していただき、塗りむらや透けないようにお願いいたします。

注 意 事 項

【仕様全般】
1. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度(80%以上)・低気温(5℃以下)の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。
2. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
3. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
4. 塗装面のゴミやホコリ等は取り除いてください。
5. 水洗後、1日以上の乾燥を行ってください。
6. 塗料は内容物が均一になるように撹拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
7. 塗装間隔時間は標準であり、立地条件や気象条件により異なります。
8. 斜壁やパラペットの天端に塗装を行なった塗膜は壁面と比較して耐久性に差が生じることがあります。
9. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色差異がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
10. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
11. エアレス塗装の場合、塗料の飛散による汚染の可能性がありますので、必ず養生してください。
12. ガラス・アルミサッシ等に付着した場合は、すぐにウエスに水をしみ込ませてふき取ってください。乾いた時は、ラッカーシンナーでふき取ってください。
13. 爆裂したような著しく劣化したサイディング材へ塗装すると意匠性が劣るため、塗装は避けてください。
14. 目地部が深い場合は、目地ハケなどで塗装してください。
15. 目地部に塗料がたまった場合や、タレが発生した場合はむら切りしてください。
16. 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
17. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット・同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
18. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
19. 濃色目になると、ローラー塗装時に塗り継ぎ箇所で艶むらを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
20. 塗装乾燥過程で降雨にあった場合、雨水の集中する部位に於いて、汚れが付着することがあります。適切な養生を行うなどして直接雨が当たらないような処置をお願いします。
21. 上塗材は所定の乾燥時間(最終養生時間)を厳守してください。施工後、塗膜が乾燥するまでの時間内に降雨などにより、塗膜表面が長時間、水分がかかった状態になりますと、所定の低汚染機能が発揮されない場合があります。
低汚染機能は乾燥後の塗膜で発揮されるため、乾燥過程で降雨などが予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に雨が当たらないよう所定の乾燥時間を厳守してください。
22. 低温、高温時は乾燥が遅くなることがありますので、塗装後1～2日は、粉じんなどの汚染物質の付着にご注意ください。
23. 防カビ・防藻性については、下地の条件・塗装の条件・塗装前処理の程度により、カビや藻が発生する可能性があります。
24. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
25. 塗膜の膨れ、剥離、白化の発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
26. 酸洗いを行う場合は、水をかけた後に行い、その後の水洗は念入りにしてください。
27. 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、剥離、白化、しみの発生、艶引けなどにつながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。
28. 上塗りにイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など、彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、隠ぺい性の良い共色であらかじめ塗装を行ってください。
29. 著しく結露を生じるような場所では、しみが発生することがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装を行う場合は、強制換気の上、溶剤系塗料での塗装を推奨いたします。
30. 結露等によりしみが発生した場合は、乾燥後に水拭きなどで除去してください。
31. パテを使用する際は外部用パテをご使用ください。
32. 旧塗膜が弾性素材の場合は施工を避けてください。
33. スキンの場合は当社営業担当までご相談ください。
34. 旧塗膜が単層弾性で爪で押して弾性が残っている場合は塗装を避けてください。
35. 躯体のクラック等によりエフロレッセンスが発生する可能性のある場合は、下塗りにリフレッシュサフェーサーエポまたは2液マイルドウォールシーラーを塗装してください。
36. 斜壁には屋根用塗料を塗装してください。
37. 水系塗料に使用するハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
38. 排水溝には捨てないでください。
39. 施工部位により、低汚染性が充分に発揮されないケースがあります。特に、傾斜壁の下端部、笠木などの水切りのない部位、窓廻りで水切りが不充分な場合、汚れが溜まりやすい目地の下部、雨がかからない部位などは、注意が必要です。
40. 濃色や原色に近い色は、塗膜に触ると色落ちや白い擦過痕が残る場合があります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
41. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質(VOC等)に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
42. 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
43. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

【塗料に関する注意】
1. 出荷後出来るだけ早い時期にご使用ください。
2. 使用前には充分撹拌してください。
3. 小分けする場合は、充分撹拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いの原因となります。
4. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
5. 水系塗料の保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
6. 材料の保管・取り扱いは消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。

超耐久性 ナノルーフ20

※寒冷地は別途ご相談ください。

NANO ROOF

住宅屋根用化粧スレート・波形スレート（アスベスト含有）・プレスセメントがわら

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット）	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。（含水率は8%以下、pHは10以下）									
下塗り	水系パワーシーラーⅡ 16kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15～0.20	80～107	－	－	2h以上	－
中塗り	ナノルーフ20中塗り 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.16～0.22	68～94	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20 12kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15～0.18	67～80	－	－	－	12h以上

※屋根材劣化が著しい場合は、洗浄を充分に行い、下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」をご使用ください。
※劣化したプレスセメントがわらの下地調整には「水系ルーファーEX」をご使用ください。
※旧塗膜が活膜の場合は、シーラーは必要ありません。

ノンアスベスト波形スレート

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット）	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－
中塗り	ナノルーフ20中塗り 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.16～0.22	68～94	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20 12kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15～0.18	67～80	－	－	－	12h以上

※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

乾式洋瓦（モニエル瓦・スカンジア瓦）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット）	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	高圧水洗しながらマジクロンやデッキブラシを用いて脆弱な着色スラリー層を除去します。（洗浄機水圧）12MPa（120kgf/㎠）以上。水洗後の洗浄水は着色する場合があります。直接下水道に流さず回収してください。詳しくは弊社スラリー強化プライマーⅡカタログの塗装手順をご参照ください。									
下塗り	スラリー強化プライマーⅡ 主剤6kg　硬化剤2kg	75%（6kg）（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.13～0.18	44～62	2h以内	－	8h以上	－
中塗り	ナノルーフ20中塗り 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.16～0.22	68～94	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20 12kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15～0.18	67～80	－	－	－	12h以上

※乾式洋瓦の塗り替えは、素地調整に留意すべき点があるため、必ず「スラリー強化プライマーⅡ」もしくは「エポックマイルドシーラー」のカタログをご参照ください。
※下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」も使用可能です。
※スラリー強化プライマーⅡは、夏季可使時間が短くなります。（30℃/1時間　35℃/30分）

アスファルトシングル

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット）	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	水系アスファルトシングル用下塗り 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	1	0.35～0.4	38～43	－	－	6h以上	－
中塗り	ナノルーフ20中塗り 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.20～0.30	50～75	－	－	4h以上	－
上塗り	ナノルーフ20（艶消） 12kg	0～5%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.20～0.35	34～60	－	－	－	16h以上

※見かけでは乾いているようでも、重なり部分に入った塗料は乾燥しにくいため再度溶出するおそれがあります。規定の塗付量を守り、重なり部に入らないようにしてください。
※アスファルトシングルの上塗りには、必ず艶消し色をご使用ください。

カラー鋼板、表面未加工のガルバリウム鋼板、金属製役物

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット）	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエポン 主剤9kg　硬化剤6kg	5～7%（希釈水）	ハケ・ローラー	1	0.16～0.18	83～94	4h以内	－	16h以上 7日以内	－
中塗り	ナノルーフ20中塗り 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20 12kg	0～4%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.15	80～100	－	－	－	12h以上

※水系ハイエポンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。
※水系ハイエポンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエポン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

●基材劣化が著しい場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット）	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－

※20年以上経過した基材など、表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」を2回塗りしてください。
※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

●各種窯業系屋根材をより美しく仕上げる場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット）	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	ハイパーサーフ 15kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1	0.2～0.4	38～75	－	－	4h以上	－

※乾式洋瓦、または表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」をハイパーサーフの前に塗装してください。

＜塗装仕様の注意点（共通）＞
①塗付量に希釈剤は含まれておりません。塗付量は条件により増減します。
②夏場、屋根材温度が高い場合は、乾燥速度を調整するため希釈量を増やしてください。
③2液型塗料は、可使時間を過ぎて使用すると塗膜性能不良となります。

注 意 事 項

【ケレン・清掃・清浄の方法】
〈窯業系基材の場合〉
●ほこり・ゴミ・苔等を、ワイヤブラシ・タワシ・高圧洗浄機などで丁寧に取り除く。波形スレートの溝の部分、重ね箇所、フックボトル周辺は特に注意する。
※黒くなっている場合は、全面をタワシでこすり、スレート素地を出す程度まで付着した異物を取り除く。
※ひび割れや防水の必要な箇所は、清掃後シーリング材で充てんしておく。（シーリング材は、ウレタン系・ポリサルファイド系をおすすめします。シリコーン系は不適）
●古い塗膜のある時
※浮き上がった塗膜（アクリル系でもウレタン系でも同様）は、ワイヤブラシでよくケレンし、活膜だけを残す。
※旧塗膜の艶が良くチョーキングしていない膜は、サンドペーパーで表面を軽く粗す。

〈金属系基材の場合〉
●さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、３種ケレンによりさびや死膜を除去する。

【塗装・養生】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. エアレス吹き付けは中圧力（8～10MPa）程度がよく、圧力調整のできる機種で中位に調整してください。
2. エアレス吹き付けなどの場合、塗料の飛散に特にご注意ください。
※付近の建物や車など、付着してはいけないものはあらかじめ養生してください。
※軒先塗装は圧力を低下させ、あて板などで養生してください。
3. 塗料がガラス、アルミサッシなどに付着したときは、すぐにウエス等に水をしみ込ませてふき取ってください。
※乾いたときは、ラッカーシンナーで傷つかないようにふき取ってください。
※自動車等に付着したときは早急に水洗いしてください。
4. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
5. ハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
6. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色相差がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
7. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット、同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
8. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
9. 金属屋根のはぜ部分など、構造上膜厚がつきにくい部分は、さびが生じやすいため、拾い塗りなどでしっかりと塗装してください。
10. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
11. 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
12. 塗装後の器具およびハケ・ローラーは直ちに水洗してください。なお、落ちにくい場合はラッカーシンナーで洗浄してください。

【施　工】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
2. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度（80%以上）・低気温（5℃以下）の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。（特に塗装後3～5時間程度は、絶対に雨などにあわないようにしてください。）
3. 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに塗装を終えて充分な乾燥時間を確保してください。
4. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
5. 2液型塗料の主剤と硬化剤の混合は必ず規定の調合割合で混合し、マーゼル等で充分撹拌してください。
6. 2液型塗料の塗料ごとの可使時間内に塗装してください。また、気温が高い場合極端に可使時間が短くなりますので、手際よく塗装してください。
7. 塗料は内容物が均一になるように撹拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
8. 塗装間隔は、被塗物の立地条件や気象条件等に大きく左右されますので、各工程の乾燥を充分確認の上、次工程に進んでください。
9. 夏季など、瓦の表面温度が特に高い場合（手のひらをあてて熱さを感じる位）は、散水してから塗装してください。
10. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質（ＶＯＣ等）に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
11. 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
12. 排水溝には捨てないでください。

【縁切り】〈窯業系基材の場合〉
1. 水切り部（基材の小口間）が塗料で塞がっている箇所はスケラー等で縁切りを行ってください。（基材と基材の間に隙間がないと、結露や雨水の逆流により、雨漏りや敷板が腐る恐れがあります。）

【保　管】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 小分けする場合は、充分撹拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いや硬化不良等の原因となります。
2. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
3. ２液型塗料は、主剤と硬化剤を別々に密栓し冷暗所に保管してください。また、開栓後は早めに使い切ってください。
4. 保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
5. 開缶後は直射日光をさけ、皮張りした場合は、必ず取り除いてください。（一度乾燥した塗膜は水に溶けませんのでガン詰まりやブツの原因になります。ご注意ください。）
6. 材料の保管、取り扱いは消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。
7. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

住宅屋根用化粧スレート・波形スレート（アスベスト含有）・プレスセメントがわら

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。（含水率は8%以下、pHは10以下）									
下塗り	水系パワーシーラーⅡ 16kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15～0.20	80～107	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ15 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15～0.18	42～50	－	2h以上	－	12h以上

※屋根材劣化が著しい場合は、洗浄を充分に行い、下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」をご使用ください。
※劣化したプレスセメントがわらの下地調整には「水系ルーファーEX」をご使用ください。
※旧塗膜が活膜の場合は、シーラーは必要ありません。

ノンアスベスト波形スレート

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－
上塗り	ナノルーフ15 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15～0.18	42～50	－	2h以上	－	12h以上

※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

乾式洋瓦（モニエル瓦・スカンジア瓦）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	高圧水洗しながらマジクロンやデッキブラシを用いて脆弱な着色スラリー層を除去します。（洗浄機水圧）12MPa（120kgf/㎠）以上。水洗後の洗浄水は着色する場合があります。直接下水道に流さず回収してください。詳しくは弊社スラリー強化プライマーⅡカタログの塗装手順をご参照ください。									
下塗り	スラリー強化プライマーⅡ 主剤6kg　硬化剤2kg	75%（6kg）（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.13～0.18	44～62	2h以内	－	8h以上	－
上塗り	ナノルーフ15 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15～0.18	42～50	－	2h以上	－	12h以上

※乾式洋瓦の塗り替えは、素地調整に留意すべき点があるため、必ず「スラリー強化プライマーⅡ」もしくは「エポックマイルドシーラー」のカタログをご参照ください。
※下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」も使用可能です。
※スラリー強化プライマーⅡは、夏季可使時間が短くなります。（30℃/1時間　35℃/30分）

アスファルトシングル

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。（含水率は8%以下、pHは10以下）									
下塗り	水系アスファルトシングル用下塗り 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	1	0.35～0.4	38～43	－	－	6h以上	－
上塗り	ナノルーフ15（艶消） 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.2～0.3	25～38	－	4h以上	－	16h以上

※見かけでは乾いているようでも、重なり部分に入った塗料は乾燥しにくいため再度溶出するおそれがあります。規定の塗付量を守り、重なり部に入らないようにしてください。
※アスファルトシングルの上塗りには、必ず艶消し色をご使用ください。

カラー鋼板、表面未加工のガルバリウム鋼板、金属製役物

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエポン 主剤9kg　硬化剤6kg	5～7%（希釈水）	ハケ・ローラー	1	0.16～0.18	83～94	4h以内	－	16h以上 7日以内	－
上塗り	ナノルーフ15 15kg	0～4%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	50～63	－	2h以上	－	12h以上

※水系ハイエポンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。
※水系ハイエポンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエポン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

●基材劣化が著しい場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－

※20年以上経過した基材など、表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」を2回塗りしてください。
※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

●各種窯業系屋根材をより美しく仕上げる場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	ハイパーサーフ 15kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1	0.2～0.4	38～75	－	－	4h以上	－

※乾式洋瓦、または表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」をハイパーサーフの前に塗装してください。

＜塗装仕様の注意点（共通）＞
①塗付量に希釈剤は含まれておりません。塗付量は条件により増減します。
②夏場、屋根材温度が高い場合は、乾燥速度を調整するため希釈量を増やしてください。
③2液型塗料は、可使時間を過ぎて使用すると塗膜性能不良となります。

注 意 事 項

【ケレン・清掃・清浄の方法】
〈窯業系基材の場合〉
●ほこり・ゴミ・苔等を、ワイヤブラシ・タワシ・高圧洗浄機などで丁寧に取り除く。波形スレートの溝の部分、重ね箇所、フックボトル周辺は特に注意する。
※黒くなっている場合は、全面をタワシでこすり、スレート素地を出す程度まで付着した異物を取り除く。
※ひび割れや防水の必要な箇所は、清掃後シーリング材で充てんしておく。（シーリング材は、ウレタン系・ポリサルファイド系をおすすめします。シリコーン系は不適）
●古い塗膜のある時
※浮き上がった塗膜（アクリル系でもウレタン系でも同様）は、ワイヤブラシでよくケレンし、活膜だけを残す。
※旧塗膜の艶が良くチョーキングしていない膜は、サンドペーパーで表面を軽く粗す。

〈金属系基材の場合〉
●さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、３種ケレンによりさびや死膜を除去する。

【塗装・養生】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. エアレス吹き付けは中圧力（8～10MPa）程度がよく、圧力調整のできる機種で中位に調整してください。
2. エアレス吹き付けなどの場合、塗料の飛散に特にご注意ください。
※付近の建物や車など、付着してはいけないものはあらかじめ養生してください。
※軒先塗装は圧力を低下させ、あて板などで養生してください。
3. 塗料がガラス、アルミサッシなどに付着したときは、すぐにウエス等に水をしみ込ませてふき取ってください。
※乾いたときは、ラッカーシンナーで傷つかないようにふき取ってください。
※自動車等に付着したときは早急に水洗いしてください。
4. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
5. ハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
6. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色相差がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
7. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット、同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
8. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
9. 金属屋根のはぜ部分など、構造上膜厚がつきにくい部分は、さびが生じやすいため、拾い塗りなどでしっかりと塗装してください。
10. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
11. 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
12. 塗装後の器具およびハケ・ローラーは直ちに水洗してください。なお、落ちにくい場合はラッカーシンナーで洗浄してください。

【施　工】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
2. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度（80%以上）・低気温（5℃以下）の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。（特に塗装後3～5時間程度は、絶対に雨などにあわないようにしてください。）
3. 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに塗装を終えて充分な乾燥時間を確保してください。
4. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
5. 2液型塗料の主剤と硬化剤の混合は必ず規定の調合割合で混合し、マーゼル等で充分撹拌してください。
6. 2液型塗料の塗料ごとの可使時間内に塗装してください。また、気温が高い場合極端に可使時間が短くなりますので、手際よく塗装してください。
7. 塗料は内容物が均一になるように撹拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
8. 塗装間隔は、被塗物の立地条件や気象条件等に大きく左右されますので、各工程の乾燥を充分確認の上、次工程に進んでください。
9. 夏季など、瓦の表面温度が特に高い場合（手のひらをあてて熱さを感じる位）は、散水してから塗装してください。
10. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質（ＶＯＣ等）に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
11. 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
12. 排水溝には捨てないでください。

【縁切り】〈窯業系基材の場合〉
1. 水切り部（基材の小口間）が塗料で塞がっている箇所はスケラー等で縁切りを行ってください。（基材と基材の間に隙間がないと、結露や雨水の逆流により、雨漏りや敷板が腐る恐れがあります。）

【保　管】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 小分けする場合は、充分撹拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いや硬化不良等の原因となります。
2. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
3. ２液型塗料は、主剤と硬化剤を別々に密栓し冷暗所に保管してください。また、開栓後は早めに使い切ってください。
4. 保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
5. 開缶後は直射日光をさけ、皮張りした場合は、必ず取り除いてください。（一度乾燥した塗膜は水に溶けませんのでガン詰まりやブツの原因になります。ご注意ください。）
6. 材料の保管、取り扱いは消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。
7. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

住宅屋根用化粧スレート・波形スレート（アスベスト含有）・プレスセメントがわら

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。（含水率は8%以下、pHは10以下）									
下塗り	水系パワーシーラーⅡ 16kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15～0.20	80～107	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ10 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15～0.18	42～50	－	2h以上	－	12h以上

※屋根材劣化が著しい場合は、洗浄を充分に行い、下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」をご使用ください。
※劣化したプレスセメントがわらの下地調整には「水系ルーファーEX」をご使用ください。
※旧塗膜が活膜の場合は、シーラーは必要ありません。

ノンアスベスト波形スレート

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－
上塗り	ナノルーフ10 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15～0.18	42～50	－	2h以上	－	12h以上

※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

乾式洋瓦（モニエル瓦・スカンジア瓦）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	高圧水洗しながらマジクロンやデッキブラシを用いて脆弱な着色スラリー層を除去します。（洗浄機水圧）12MPa（120kgf/㎠）以上。水洗後の洗浄水は着色する場合があります。直接下水道に流さず回収してください。詳しくは弊社スラリー強化プライマーⅡカタログの塗装手順をご参照ください。									
下塗り	スラリー強化プライマーⅡ 主剤6kg　硬化剤2kg	75%（6kg）（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.13～0.18	44～62	2h以内	－	8h以上	－
上塗り	ナノルーフ10 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15～0.18	42～50	－	2h以上	－	12h以上

※乾式洋瓦の塗り替えは、素地調整に留意すべき点があるため、必ず「スラリー強化プライマーⅡ」もしくは「エポックマイルドシーラー」のカタログをご参照ください。
※下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」も使用可能です。
※スラリー強化プライマーⅡは、夏季可使時間が短くなります。（30℃/1時間　35℃/30分）

アスファルトシングル

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。（含水率は8%以下、pHは10以下）									
下塗り	水系アスファルトシングル用下塗り 15kg	無希釈	ハケ・ローラー	1	0.35～0.4	38～43	－	－	6h以上	－
上塗り	ナノルーフ10（艶消） 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.2～0.3	25～38	－	4h以上	－	16h以上

※見かけでは乾いているようでも、重なり部分に入った塗料は乾燥しにくいため再度溶出するおそれがあります。規定の塗付量を守り、重なり部に入らないようにしてください。
※アスファルトシングルの上塗りには、必ず艶消し色をご使用ください。

カラー鋼板、表面未加工のガルバリウム鋼板、金属製役物

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエポン 主剤9kg　硬化剤6kg	5～7%（希釈水）	ハケ・ローラー	1	0.16～0.18	83～94	4h以内	－	16h以上 7日以内	－
上塗り	ナノルーフ10 15kg	0～4%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	50～63	－	2h以上	－	12h以上

※水系ハイエポンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。
※水系ハイエポンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエポン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

●基材劣化が著しい場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－

※20年以上経過した基材など、表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」を2回塗りしてください。
※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

●各種窯業系屋根材をより美しく仕上げる場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	ハイパーサーフ 15kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1	0.2～0.4	38～75	－	－	4h以上	－

※乾式洋瓦、または表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」をハイパーサーフの前に塗装してください。

＜塗装仕様の注意点（共通）＞
①塗付量に希釈剤は含まれておりません。塗付量は条件により増減します。
②夏場、屋根材温度が高い場合は、乾燥速度を調整するため希釈量を増やしてください。
③2液型塗料は、可使時間を過ぎて使用すると塗膜性能不良となります。

注 意 事 項

【ケレン・清掃・清浄の方法】
〈窯業系基材の場合〉
●ほこり・ゴミ・苔等を、ワイヤブラシ・タワシ・高圧洗浄機などで丁寧に取り除く。波形スレートの溝の部分、重ね箇所、フックボトル周辺は特に注意する。
※黒くなっている場合は、全面をタワシでこすり、スレート素地を出す程度まで付着した異物を取り除く。
※ひび割れや防水の必要な箇所は、清掃後シーリング材で充てんしておく。（シーリング材は、ウレタン系・ポリサルファイド系をおすすめします。シリコーン系は不適）
●古い塗膜のある時
※浮き上がった塗膜（アクリル系でもウレタン系でも同様）は、ワイヤブラシでよくケレンし、活膜だけを残す。
※旧塗膜の艶が良くチョーキングしていない膜は、サンドペーパーで表面を軽く粗す。

〈金属系基材の場合〉
●さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、３種ケレンによりさびや死膜を除去する。

【塗装・養生】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. エアレス吹き付けは中圧力（8～10MPa）程度がよく、圧力調整のできる機種で中位に調整してください。
2. エアレス吹き付けなどの場合、塗料の飛散に特にご注意ください。
※付近の建物や車など、付着してはいけないものはあらかじめ養生してください。
※軒先塗装は圧力を低下させ、あて板などで養生してください。
3. 塗料がガラス、アルミサッシなどに付着したときは、すぐにウエス等に水をしみ込ませてふき取ってください。
※乾いたときは、ラッカーシンナーで傷つかないようにふき取ってください。
※自動車等に付着したときは早急に水洗いしてください。
4. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
5. ハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
6. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色相差がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
7. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット、同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
8. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
9. 金属屋根のはぜ部分など、構造上膜厚がつきにくい部分は、さびが生じやすいため、拾い塗りなどでしっかりと塗装してください。
10. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
11. 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
12. 塗装後の器具およびハケ・ローラーは直ちに水洗してください。なお、落ちにくい場合はラッカーシンナーで洗浄してください。

【施　工】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
2. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度（80%以上）・低気温（5℃以下）の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。（特に塗装後3～5時間程度は、絶対に雨などにあわないようにしてください。）
3. 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに塗装を終えて充分な乾燥時間を確保してください。
4. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
5. 2液型塗料の主剤と硬化剤の混合は必ず規定の調合割合で混合し、マーゼル等で充分撹拌してください。
6. 2液型塗料の塗料ごとの可使時間内に塗装してください。また、気温が高い場合極端に可使時間が短くなりますので、手際よく塗装してください。
7. 塗料は内容物が均一になるように撹拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
8. 塗装間隔は、被塗物の立地条件や気象条件等に大きく左右されますので、各工程の乾燥を充分確認の上、次工程に進んでください。
9. 夏季など、瓦の表面温度が特に高い場合（手のひらをあてて熱さを感じる位）は、散水してから塗装してください。
10. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質（ＶＯＣ等）に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
11. 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
12. 排水溝には捨てないでください。

【縁切り】〈窯業系基材の場合〉
1. 水切り部（基材の小口間）が塗料で塞がっている箇所はスケラー等で縁切りを行ってください。（基材と基材の間に隙間がないと、結露や雨水の逆流により、雨漏りや敷板が腐る恐れがあります。）

【保　管】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 小分けする場合は、充分撹拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いや硬化不良等の原因となります。
2. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
3. ２液型塗料は、主剤と硬化剤を別々に密栓し冷暗所に保管してください。また、開栓後は早めに使い切ってください。
4. 保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
5. 開缶後は直射日光をさけ、皮張りした場合は、必ず取り除いてください。（一度乾燥した塗膜は水に溶けませんのでガン詰まりやブツの原因になります。ご注意ください。）
6. 材料の保管、取り扱いは消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。
7. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

住宅屋根用化粧スレート・波形スレート（アスベスト含有）・プレスセメントがわら

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。（含水率は8%以下、pHは10以下）									
下塗り	快適サーモ水系シーラー白 16kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15～0.20	80～107	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20遮熱+ 12kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15～0.18	33～40	－	2h以上	－	12h以上

※屋根材劣化が著しい場合は、基材洗浄を充分に行い、下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」+「快適サーモW中塗りクリーム」をご使用ください。
※劣化したプレスセメントがわらの下地調整には「水系ルーファーEX」をご使用ください。
※旧塗膜が活膜の場合は、シーラーは必要ありません。

ノンアスベスト波形スレート

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－
中塗り	快適サーモW中塗クリーム 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20遮熱+ 12kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	40～50	－	2h以上	－	12h以上

※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

乾式洋瓦（モニエル瓦・スカンジア瓦）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	高圧水洗しながらマジクロンやデッキブラシを用いて脆弱な着色スラリー層を除去します。（洗浄機水圧）12MPa（120kgf/㎠）以上。水洗後の洗浄水は着色する場合があります。直接下水道に流さず回収してください。詳しくは弊社スラリー強化プライマーⅡカタログの塗装手順をご参照ください。									
下塗り	スラリー強化プライマーⅡ 主剤6kg　硬化剤2kg	75%（6kg）（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.13～0.18	44～62	2h以内	－	8h以上	－
中塗り	快適サーモW中塗クリーム 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20遮熱+ 12kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	40～50	－	2h以上	－	12h以上

※乾式洋瓦の塗り替えは、素地調整に留意すべき点があるため、必ず「スラリー強化プライマーⅡ」もしくは「エポックマイルドシーラー」のカタログをご参照ください。
※下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」も使用可能です。
※スラリー強化プライマーⅡは、夏季可使時間が短くなります。（30℃/1時間　35℃/30分）

アスファルトシングル

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	水系アスファルトシングル用下塗り サーモクリーム　15kg	無希釈	ハケ・ローラー	1	0.35～0.40	38～43	－	－	6h以上	－
上塗り	ナノルーフ20遮熱+（艶消） 12kg	0～5%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.20～0.35	17～30	－	4h以上	－	16h以上

※見かけでは乾いているようでも、重なり部分に入った塗料は乾燥しにくいため再度溶出するおそれがあります。規定の塗付量を守り、重なり部に入らないようにしてください。
※アスファルトシングルの上塗りには、必ず艶消し色をご使用ください。

カラー鋼板、表面未加工のガルバリウム鋼板、金属製役物

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエポン 主剤9kg　硬化剤6kg	5～7%（希釈水）	ハケ・ローラー	1	0.16～0.18	83～94	4h以内	－	16h以上 7日以内	－
中塗り	快適サーモW中塗クリーム 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20遮熱+ 12kg	0～4%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	40～50	－	2h以上	－	12h以上

※水系ハイエポンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。
※水系ハイエポンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエポン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

●基材劣化が著しい場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以上	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－
中塗り	快適サーモW中塗クリーム 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	－	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ20遮熱+ 12kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	40～50	－	2h以上	－	12h以上

※20年以上経過した基材など、表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」を2回塗りしてください。
※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

＜塗装仕様の注意点（共通）＞
①塗付量に希釈剤は含まれておりません。塗付量は条件により増減します。
②夏場、屋根材温度が高い場合は、乾燥速度を調整するため希釈量を増やしてください。
③2液型塗料は、可使時間を過ぎて使用すると塗膜性能不良となります。

注 意 事 項

【ケレン・清掃・清浄の方法】
〈窯業系基材の場合〉
●ほこり・ゴミ・苔等を、ワイヤブラシ・タワシ・高圧洗浄機などで丁寧に取り除く。波形スレートの溝の部分、重ね箇所、ブックボトル周辺は特に注意する。
※黒くなっている場合は、全面をタワシでこすり、スレート素地を出す程度まで付着した異物を取り除く。
※ひび割れや防水の必要な箇所は、清掃後シーリング材で充てんしておく。（シーリング材は、ウレタン系・ポリサルファイド系をおすすめします。シリコーン系は不適）
●古い塗膜のある時
※浮き上がった塗膜（アクリル系でもウレタン系でも同様）は、ワイヤブラシでよくケレンし、活膜だけを残す。
※旧塗膜の艶が良くチョーキングしていない膜は、サンドペーパーで表面を軽く粗す。

〈金属系基材の場合〉
●さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、３種ケレンによりさびや死膜を除去する。

【塗装・養生】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 塗付量不足の場合は、熱反射率や耐久性が低下しますので、塗付量は厳守してください。
2. 遮熱塗料は、塗付量が少ないと色相が違って見えたり、充分に隠ぺいしないことがありますので、塗付量は厳守してください。
3. 遮熱効果は色相によって異なります。特に旧塗膜の明度が高く、塗り替えた塗膜の明度が低い場合は、遮熱効果が低下する場合があります。
4. 下記基材・条件については効果が出にくいのでご注意ください。
※色の選定で明度が下がる場合　(例)旧塗膜が薄いグレーからサーモブラックを塗装する場合。
※建物の構造上による場所
5. 高反射の特殊塗料を使用しているため、直射日光が当たる部分の塗装は、必ずサングラスをご使用ください。
6. エアレス吹き付けは中圧力（8～10MPa）程度がよく、圧力調整のできる機種で中位に調整してください。
7. エアレス吹き付けなどの場合、塗料の飛散に特にご注意ください。
※付近の建物や車など、付着してはいけないものはあらかじめ養生してください。
※軒先塗装は圧力を低下させ、あて板などで養生してください。
8. 塗料がガラス、アルミサッシなどに付着したときは、すぐにウエス等に水をしみ込ませてふき取ってください。
※乾いたときは、ラッカーシンナーで傷つかないようにふき取ってください。
※自動車等に付着したときは早急に水洗いしてください。
9. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
10. ハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
11. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色相差がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
12. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット、同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
13. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
14. 金属屋根のはぜ部分など、構造上膜厚がつきにくい部分は、さびが生じやすいため、拾い塗りなどでしっかりと塗装してください。
15. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
16. 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
17. 塗装後の器具およびハケ・ローラーは直ちに水洗してください。なお、落ちにくい場合はラッカーシンナーで洗浄してください。

【施　工】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
2. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度（80%以上）・低気温（5℃以下）の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。（特に塗装後3～5時間程度は、絶対に雨などにあわないようにしてください。）
3. 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに塗装を終えて充分な乾燥時間を確保してください。
4. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
5. 2液型塗料の主剤と硬化剤の混合は必ず規定の調合割合で混合し、マーゼル等で充分撹拌してください。
6. 2液型塗料の塗料ごとの可使時間内に塗装してください。また、気温が高い場合極端に可使時間が短くなりますので、手際よく塗装してください。
7. 塗料は内容物が均一になるように撹拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
8. 塗装間隔は、被塗物の立地条件や気象条件等に大きく左右されますので、各工程の乾燥を充分確認の上、次工程に進んでください。
9. 夏季など、瓦の表面温度が特に高い場合（手のひらをあてて熱さを感じる位）は、散水してから塗装してください。
10. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質（ＶＯＣ等）に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
11. 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
12. 排水溝には捨てないでください。

【縁切り】〈窯業系基材の場合〉
1. 水切り部（基材の小口間）が塗料で塞がっている箇所はスケラー等で縁切りを行ってください。（基材と基材の間に隙間がないと、結露や雨水の逆流により、雨漏りや敷板が腐る恐れがあります。）

【保　管】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 小分けする場合は、充分撹拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いや硬化不良等の原因となります。
2. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
3. ２液型塗料は、主剤と硬化剤を別々に密栓し冷暗所に保管してください。また、開栓後は早めに使い切ってください。
4. 保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
5. 開缶後は直射日光をさけ、皮張りした場合は、必ず取り除いてください。（一度乾燥した塗膜は水に溶けませんのでガン詰まりやブツの原因になります。ご注意ください。）
6. 材料の保管、取り扱いは消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。
7. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

住宅屋根用化粧スレート・波形スレート（アスベスト含有）・プレスセメントがわら

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	劣化塗膜、脆弱部分、塵あい、苔、油脂類は高圧洗浄機で除去後、充分に乾燥した清浄な面とする。（含水率は8%以下、pHは10以下）									
下塗り	快適サーモ水系シーラー白 16kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1	0.15～0.20	80～107	—	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ15遮熱+ 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.15～0.18	42～50	—	2h以上	－	12h以上

※屋根材劣化が著しい場合は、洗浄を充分に行い、下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」をご使用ください。
※劣化したプレスセメントがわらの下地調整には「水系ルーファーEX」をご使用ください。
※旧塗膜が活膜の場合は、シーラーは必要ありません。

ノンアスベスト波形スレート

工程	使用塗料	希釈割合	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－
中塗り	快適サーモW中塗クリーム 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	—	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ15遮熱+ 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	50～63	—	2h以上	－	12h以上

※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

乾式洋瓦（モニエル瓦・スカンジア瓦）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	高圧水洗しながらマジクロンやデッキブラシを用いて脆弱な着色スラリー層を除去します。（洗浄機水圧）12MPa（120kgf/㎠）以上。水洗後の洗浄水は着色する場合があります。直接下水道に流さず回収してください。詳しくは弊社スラリー強化プライマーⅡカタログの塗装手順をご参照ください。									
下塗り	スラリー強化プライマーⅡ 主剤6kg　硬化剤2kg	75%（6kg）（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.13～0.18	44～62	2h以内	－	8h以上	－
中塗り	快適サーモW中塗クリーム 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	—	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ15遮熱+ 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	50～63	—	2h以上	－	12h以上

※乾式洋瓦の塗り替えは、素地調整に留意すべき点があるため、必ず「スラリー強化プライマーⅡ」もしくは「エポックマイルドシーラー」のカタログをご参照ください。
※下塗りに「エポックマイルドシーラー（弱溶剤系）」も使用可能です。
※スラリー強化プライマーⅡは、夏季可使時間が短くなります。（30℃/1時間　35℃/30分）

アスファルトシングル

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	水系アスファルトシングル用下塗り サーモクリーム　15kg	無希釈	ハケ・ローラー	1	0.35～0.40	38～43	－	－	6h以上	－
上塗り	ナノルーフ15遮熱+（艶消） 15kg	0～5%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.20～0.35	21～38	－	4h以上	－	16h以上

※見かけでは乾いているようでも、重なり部分に入った塗料は乾燥しにくいため再度溶出するおそれがあります。規定の塗付量を守り、重なり部に入らないようにしてください。
※アスファルトシングルの上塗りには、必ず艶消し色をご使用ください。

カラー鋼板、表面未加工のガルバリウム鋼板、金属製役物

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエポン 主剤9kg　硬化剤6kg	5～7%（希釈水）	ハケ・ローラー	1	0.16～0.18	83～94	4h以内	－	16h以上 7日以内	－
中塗り	快適サーモW中塗クリーム 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	—	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ15遮熱+ 15kg	0～4%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	50～63	—	2h以上	－	12h以上

※水系ハイエポンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。
※水系ハイエポンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエポン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

●基材劣化が著しい場合の下塗り材

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート（アスベスト含有）、ノンアスベスト波形スレート、プレスセメントがわら、乾式洋瓦

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数（回）	塗付量（kg/㎡/回）	塗面積（㎡/缶（セット））	可使時間（23℃）	塗装間隔（23℃） 工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物（ゴミ、ホコリ、苔カビ、油脂類）をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下塗り	エポックマイルドシーラー 主剤10kg　硬化剤1kg	無希釈	ハケ・ローラー エアレス	1（～2）	0.1～0.15	73～110（36～55）	8h以内	－（4h以上）	5h以上 7日以内	－
中塗り	快適サーモW中塗クリーム 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	1	0.12～0.18	83～125	—	－	2h以上	－
上塗り	ナノルーフ15遮熱+ 15kg	5～10%（希釈水）	ハケ・ローラー エアレス	2	0.12～0.15	50～63	—	2h以上	－	12h以上

※20年以上経過した基材など、表面が劣化し特に脆弱になっている場合は、「エポックマイルドシーラー」を2回塗りしてください。
※「エポックマイルドシーラー」は、弱溶剤系塗料です。

＜塗装仕様の注意点（共通）＞
①塗付量に希釈剤は含まれておりません。塗付量は条件により増減します。
②夏場、屋根材温度が高い場合は、乾燥速度を調整するため希釈量を増やしてください。
③2液型塗料は、可使時間を過ぎて使用すると塗膜性能不良となります。

注 意 事 項

【ケレン・清掃・清浄の方法】
〈窯業系基材の場合〉
●ほこり・ゴミ・苔等を、ワイヤブラシ・タワシ・高圧洗浄機などで丁寧に取り除く。波形スレートの溝の部分、重ね箇所、フックボルト周辺は特に注意する。
※黒くなっている場合は、全面をタワシでこすり、スレート素地を出す程度まで付着した異物を取り除く。
※ひび割れや防水の必要な箇所は、清掃後シーリング材で充てんしておく。（シーリング材は、ウレタン系・ポリサルファイド系をおすすめします。シリコーン系は不適）
●古い塗膜のある時
※浮き上がった塗膜（アクリル系でもウレタン系でも同様）は、ワイヤブラシでよくケレンし、活膜だけを残す。
※旧塗膜の艶が良くチョーキングしていない膜は、サンドペーパーで表面を軽く粗す。

〈金属系基材の場合〉
●さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、３種ケレンによりさびや死膜を除去する。

【塗装・養生】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 塗付量不足の場合は、熱反射率や耐久性が低下しますので、塗付量は厳守してください。
2. 遮熱塗料は、塗付量が少ないと色相が違って見えたり、充分に隠ぺいしないことがありますので、塗付量は厳守してください。
3. 遮熱効果は色相によって異なります。特に旧塗膜の明度が高く、塗り替えた塗膜の明度が低い場合は、遮熱効果が低下する場合があります。
4. 下記基材・条件については効果が出にくいのでご注意ください。
※色の選定で明度が下がる場合　(例)旧塗膜が薄いグレーからサーモブラックを塗装する場合。
※建物の構造上による場所
5. 高反射の特殊塗料を使用しているため、直射日光が当たる部分の塗装は、必ずサングラスをご使用ください。
6. エアレス吹き付けは中圧力（8～10MPa）程度がよく、圧力調整のできる機種で中位に調整してください。
7. エアレス吹き付けなどの場合、塗料の飛散に特にご注意ください。
※付近の建物や車など、付着してはいけないものはあらかじめ養生してください。
※軒先塗装は圧力を低下させ、あて板などで養生してください。
8. 塗料がガラス、アルミサッシなどに付着したときは、すぐにウエス等に水をしみ込ませてふき取ってください。
※乾いたときは、ラッカーシンナーで傷つかないようにふき取ってください。
※自動車等に付着したときは早急に水洗いしてください。
9. シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
10. ハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
11. ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色相差がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
12. 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット、同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご注意ください。
13. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
14. 金属屋根のはぜ部分など、構造上膜厚がつきにくい部分は、さびが生じやすいため、拾い塗りなどでしっかりと塗装してください。
15. 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
16. 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
17. 塗装後の器具およびハケ・ローラーは直ちに水洗してください。なお、落ちにくい場合はラッカーシンナーで洗浄してください。

【施　工】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
2. 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度（80%以上）・低気温（5℃以下）の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。（特に塗装後3～5時間程度は、絶対に雨などにあわないようにしてください。）
3. 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに塗装を終えて充分な乾燥時間を確保してください。
4. 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目粗しを行って再度塗装してください。
5. 2液型塗料の主剤と硬化剤の混合は必ず規定の調合割合で混合し、マーゼル等で充分撹拌してください。
6. 2液型塗料の塗料ごとの可使時間内に塗装してください。また、気温が高い場合極端に可使時間が短くなりますので、手際よく塗装してください。
7. 塗料は内容物が均一になるように撹拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がり不良等が起こりますのでご注意ください。
8. 塗装間隔は、被塗物の立地条件や気象条件等に大きく左右されますので、各工程の乾燥を充分確認の上、次工程に進んでください。
9. 夏季など、瓦の表面温度が特に高い場合（手のひらをあてて熱さを感じる位）は、散水してから塗装してください。
10. 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質（ＶＯＣ等）に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
11. 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
12. 排水溝には捨てないでください。

【縁切り】〈窯業系基材の場合〉
1. 水切り部（基材の小口間）が塗料で塞がっている箇所はスケラー等で縁切りを行ってください。（基材と基材の間に隙間がないと、結露や雨水の逆流により、雨漏りや敷板が腐る恐れがあります。）

【保　管】〈窯業系・金属系基材共通〉
1. 小分けする場合は、充分撹拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いや硬化不良等の原因となります。
2. 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
3. ２液型塗料は、主剤と硬化剤を別々に密栓し冷暗所に保管してください。また、開栓後は早めに使い切ってください。
4. 保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
5. 開缶後は直射日光をさけ、皮張りした場合は、必ず取り除いてください。（一度乾燥した塗膜は水に溶けませんのでガン詰まりやブツの原因になります。ご注意ください。）
6. 材料の保管、取り扱いは消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。
7. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。